

アジアがひらく日本

2019年1月26日 13:30～16:30

日本学術会議講堂

(東京メトロ千代田線「乃木坂駅」5番出口徒歩1分)

開会挨拶

浦野正樹 (社会学系コンソーシアム理事長、早稲田大学教授)

報告

「アジア」と「日本」の再定義——グローバル秩序の変容と社会科学の課題

落合恵美子 (日本学術会議連携会員・日本家族社会学会、京都大学教授)

アジアにみるポスト福祉国家の可能性と限界——21世紀の共通課題を考える

金 成垣 (日本社会福祉学会、東京大学准教授)

東アジアの移住ケア労働者——移民レジームとケアレジームの観点から

小川玲子 (日本社会学会、千葉大学准教授)

排外主義の台頭と多文化共生

塩原良和 (関東社会学会、慶應義塾大学教授)

中国台頭の国際心理——アジア域内の温度差をめぐって

園田茂人 (日本学術会議連携会員・日本社会学会、東京大学教授)

討論者

町村敬志 (日本学術会議会員・日本社会学会長、一橋大学教授)

美馬達哉 (日本保健医療社会学会、立命館大学教授)

司会進行

蘭 信三 (関西社会学会、上智大学教授)

有田 伸 (数理社会学会、東京大学教授)

閉会挨拶

遠藤 薫 (日本学術会議会員、学習院大学教授)

主催：社会学系コンソーシアム、日本学術会議社会学委員会

お問い合わせ：社会学系コンソーシアム事務局

socconsortium@socconso.com

* 参加費・事前申し込みは不要です

グローバル化の進む21世紀、アジアと日本の関係はますます緊密化している。資本やモノの移動に加えて、近年ではヒトや情報の移動も活発化しており、日本社会においても外国人労働者の受け入れや多文化共生の問題が喫緊の課題となっている。またこの間の社会経済発展によって、社会保障の問題をはじめ、アジアと日本はより多くの共通課題を抱えるようになっており、さらにアジア諸国の国際的影響力の高まりは、国際秩序の中での日本のポジションと、日本社会のアジア認識の再構築を促している。本シンポジウムでは、このように急速に変化しつつあるアジアと日本社会との関係を総合的な視点から捉えなおし、それを通じて21世紀の日本社会が進むべき道を考えていきたい。

登壇者プロフィール

落合恵美子（OCHIAI Emiko）

京都大学大学院文学研究科教授。東京大学社会学修士。京都大学アジア研究教育ユニット長、アジア親密圏／公共圏教育研究センター長。日本とアジアにおける家族とジェンダーの変容の研究と並行して、アジア地域における学術的共通基盤の形成に尽力し、2011年に日本学術会議の提言をまとめた。ブリル社より刊行中のThe Intimate and the Public in Asian and Global Perspectives のシリーズエディター。著書に『21世紀家族へ（第4版）』（2019年予定）など。

金 成垣（KIM Sung-won）

東京大学大学院人文社会系研究科准教授。1973年生まれ。2007年東京大学大学院人文社会系研究科博士課程修了。博士（社会学）。東京大学社会科学研究所助教、東京経済大学経済学部准教授、明治学院大学社会学部准教授を経て、2018年から現職。『後発福祉国家論—比較のなかの韓国と東アジア』（2008）、『現代の比較福祉国家論—東アジア発の新しい理論構築に向けて』（編、2010）、『福祉国家の日韓比較—「後発国」における雇用保障・社会保障』（2017）、『アジアにおける高齢者の生活保障—持続可能な福祉社会を求めて』（共編、2017）など。

小川玲子（OGAWA Reiko）

千葉大学大学院社会科学院准教授。国際交流基金、九州大学比較社会文化研究院准教授を経て、現職。主要著作：(eds.) Reiko Ogawa et al., 2018, Gender, Care and Migration in East Asia, Palgrave Macmillan; “From Social Reproduction to Gender Equality: Women’s Work and Care in Japan”, (eds.) Marian Baird et al., Women's Work and Care in Asia/Pacific, Routledge, 2017; Guest Editor, Special Issue on Migration and Care Work: Policies and Practices in Asia, Editorial, Asia Pacific Journal of Social Work and Development Vol. 27(3-4), 2017.

塩原良和（SHIOBARA Yoshikazu）

慶應義塾大学法学部教授。1973年生まれ。慶應義塾大学大学院社会学研究科後期博士課程単位取得退学。博士（社会学）。日本学術振興会海外特別研究員（シドニー大学）、東京外国語大学外国語学部准教授などを経て、現職。主著に『分断するコミュニティ』（法政大学出版局、2017年）、『分断と対話の社会学』（2017年）、『共に生きる』（2012）、『変革する多文化主義へ』（2010）、『ネオ・リベラリズムの時代の多文化主義』（2005）、『社会的分断を越境する』（共編著、2017）、『変容する国際移住のリアリティ』（共編著、2017）など。

園田茂人（SONODA Shigeto）

東京大学東洋文化研究所教授、北京日本学研究中心主任教授。1961年生まれ。1988年東京大学大学院社会学研究科博士課程中退。同年、東京大学文学部助手。中央大学文学部教授、早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授などを経て、2009年から現職。主要著作は『中国人の心理と行動』（2001）、『不平等国家 中国』（2008）『日中関係史1972-2012 III 社会・文化』（編、2012）、『連携と離反の東アジア』（編、2015）『チャイナ・インパクト』（共編、2018）など。